

# 衛星で農地管理 精度高く

## アクリীগ、「みちびき」活用

自治体の行政事務支援を手がけるアクリীগ(栃木県小山市)は、準天頂衛星「みちびき」の高精度な位置情報を使った農地管理アプリを開発する。畑のどの区画に何を作付けしたかを手軽に記録でき、熟練者でなくとも連作障害を防ぐことができる。早期に実用化し、貸農園の利用増など農業振興につなげる。

### 作付け区画など記録

## アプリで手軽

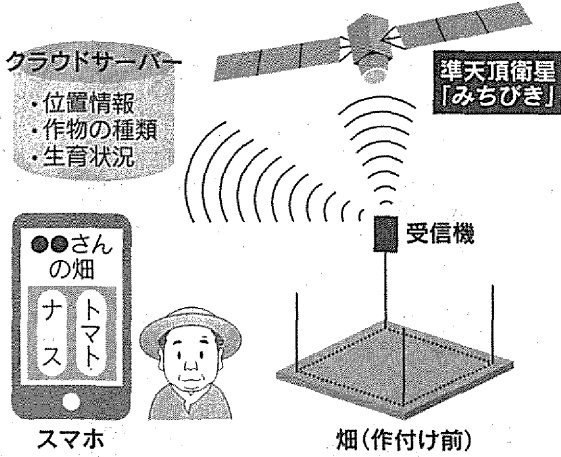


一つの畑で多様な野菜を育てているケースは多い(栃木県小山市の農園)

トマトやナス、ピーマンといったナス科の作物は連続して育てると、生育不良などの連作障害が起りやすい。植え付け場所を毎年変更すれば連作障害を避けられるが、自身も家庭菜園を手掛ける同社の磯山左門社長は「小規模な畑の区画は細かく、手書きでの管理は煩雑」と話す。

開発するアプリは作付け管理に、誤差数センチというみちびきの計測システムを利用する。例えばトマトを植えたい区画を決めたら、四隅に受信機を持った人が立ち、その位置情報をサーバーに記録する。手元のスマートフォンでサーバーのデー

みちびきの位置情報を農地管理に活用する



タに作物名を入力すれば作業は完了する。位置情報をサーバーに記録することで「作付けや収穫を経ても、いつどこに何を植えたかがスマホで手軽にわかる」(磯山社長)。アプリには拡張現実(AR)を活用し畑にスマホをかざすと画

面に四隅を示すピンが現れる機能や、写真などで生育状況を管理できる機能なども実装する考えだ。

みちびきの民間活用を推進する内閣府はこのほど、アクリীগのアプリ開発を実証実験として採択した。磯山社長が借りている約1000平方メートルの農園を使って、11月から4カ月にわたり開発に取り組み。内閣府からは事業費約550万円のほか、受信機の無償貸与と

いった支援を受ける。スマホの位置情報は全地球測位システム(GPS)に頼っている。将来的により高精度なみちびきに移行すれば、受信機經由ではなくスマホで農地管理が直接できるようになる。磯山社長は「貸農園など小さな畑で農業を楽しむ人の増加につき」と期待している。